

募金活動大詰め 幹事大集合に寄せて

平成21年2月8日(日)

1月28日の常任幹事会で「目標2億円に、あと5500万円。富士山にたとえれば7合目。何とか納入率50%を目指して頑張つて！」と事務局が懇願。後期高齢者の期や年配の期から「何が50%や、夢みたいなこと言うな。若い期の寄附者の数があまりにも少ない、5人や6人の期もある。寂しい。これでは100周年記



念が泣く。若いモン、もつと知恵を出してガンバランかい」の声が相次いだ。ここは東生会幹事が一丸となつて立ち向かう場面である。2月8日の日曜日に学校に集まって、20回生から60回生の幹事が同級生に募金への思いを込めた「お願い文」を作成・発送をすることに決定。今回は、中味を見ずに捨てられることがないように、封筒でなくハガキで。事務局には「集合の連絡をして一週間やそこらで、果たして幹事が集まるのか」の不安があったにもかかわらず、ふたを開ければ、どの期も寄附済み者を除いた数のハガキを購入して集結。東生会の必死の思いは以心伝心。代理出席等、誰かが出席している。また「いざ鎌

倉」となると強力な援軍となり、黙々と雑務をこなす昔の校内幹事の心意気も凄い。手紙の趣旨は「一口10,000円にこだわらず、多くても少なくてもいい。出しやすい範囲で、一人でも多くの方に募金に参加して欲しい」である。東生会館3階30畳の和室で膝を折って机上に積み上げたハガキと格闘。親しい友人知人には添え書きも。1回生の長老幹事が「今後の進行が心配やから、ハッパをかけに来たよ。」と飛び入りの助っ人に。こまめな同窓会活動が続ける期の幹事は「女性が動く期は強いです。男はアバウトで信頼性に?マーク。井戸端会議を大事にしませう。」の微笑ましいアドバイス。多い期は7人も出席。「お金は集まりませんが、人は集まるのが我が期のパワーです」との弁。中には一人の幹事が孤軍奮闘して、宛名シールやロゴシール貼りまで一人で完投の期も。



さらには、4日間通い続けて封筒表に、一人一人にメッセージを書く期もあり。その上家族まで手伝いに呼び寄せる涙ぐましい。高校卒業以来まったく同窓が一同に会したことのない期では「同窓会をしよう」の話が即決。常に率先垂範、東高のことで頭がいっぱいの大西会長も激励と慰労に來られ、熱のこもった幹事の作業を目の当たりにして、このたびのハガキ大作戦幹事大集合に安堵と

満足の御様子。各期同士の情報交換の場にもなり、収穫の多い一日となった。一仕事を終えた幹事さん達は、今後の100周年記念行事を進めていくにおいて、スタッフとしての参加にも喜んで応じます、との力強い言葉を残して帰って行かれた。

この3週間後(3月上旬)に、ハガキ作戦による反響を示す数字(グリーンと上がった納入率)を各期幹事にお知らせすることになる。その数字を見て、次は電話作戦に移行した。この号を御覧の同窓会員の方には「そう言えば、永らくご無沙汰の友達から電話をいただきたいなあ」と回想される方もおられるのではないだろうか。

事務局は一時、入試の結果発表を待つ受験生のような気持ちであったが、東生会会員の方の熱い思いが伝わり、多くの感動をいただけたこの1年でした。ただただ感謝。素晴らしいし哉、東高の卒業生。事業をやり抜きましょう。